

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

（平成 29 年 2 月 16 日 午後 1 時 00 分）

●議長（小林幸雄） それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。
通告の 3 荒井賢蔵議員。

- 1 町長の政治姿勢
- 2 農業問題について
- 3 子供医療費無料化について

議席番号 13 番・荒井賢蔵議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 議席番号 13 番・荒井賢蔵です。

本題に入る前に、一点伺います。

1 月のあの大雪でハウスの倒壊などがあった時、1 月 24 日でしたか、私と永原議員をはじめ、共産党の信濃町委員会として町長に福祉灯油をはじめ 5 項目について、申し入れをしましたが、そのことはどのような対応になりましたか、伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 通告外の予想外の質問で、ちょっとびっくりしていますが、先般 1 月の確か 24 日の日ですか、日本共産党の信濃町委員会、そしてまた議員団として、お越しになられまして、豪雪対策について要請があったわけでございます。それぞれ広報関係、そしてまた農業パイプハウスの支援策等々、福祉灯油も含めて、5 項目ほどの御要望、御要請があったわけでございます。

それぞれ受け止めをさせていただいておりますが、具体的には、今申し上げましたように、町でも 1 月の 23 日の日に、御要請いただく前の日でございますが、雪害の警戒の対策本部を立ち上げて、それぞれ町民の皆さん方にも、いろいろな面で安全策についても広報をしているところでございます。

それに関連して、福祉灯油等々の問題がありますが、これ、荒井議員さんをはじめ、福祉灯油という言葉をお使いになっているんだらうというふうに思いますが、私どもの行政対応としまして、石油類の高騰、つまり高く、大変高くなったと、そういうことに過去に 2・3 回対応させていただいておりますが、現行、その価格的にもそれほど、それほどと言いますか、その当時ほどのことではないということで、対応についてはしていない、現段階でもそのことについて対応する予定はございません。

そんなことで、それからパイプハウス等々大変な被害に遭われました。私どもの方も担当課で被害状況を把握した中では、10 棟ほどパイプハウスが雪害に遭ったという被害報告をまとめてあります。これにつきましても、例えば何災害でしたか…激甚災害、そういうふうに値しないわけでございますので、したがって、国県のいろいろな制度上の対応もないと。もっと言いますと、パイプハウス等については 14 年以上経過していると、

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

いわゆる被害に遭われたパイプハウスについて、その場合に激甚災害等々の場合でも 14 年以内が対象になるということでございますので、雪害に対する安全策等々については周知をしておりますが、それ以外のものについては具体的な対応はしておりません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） それでは、本題に入ります。

私は、いつも町長の政治姿勢をテーマに質問してまいりました。なぜ、町長の政治姿勢かといえば、町長は「住民の安心・安全の生活のために」を基本に、自治体運営に責任を持たなければいけないし、国県からの政策を実践する立場にあります。その場合、国の政策などをどのように考えるかということは重要だと思います。

例えば、以前に質問しました安保法制、私どもは戦争法と言っておりますが、このことは憲法 9 条との関係や自衛隊員の生命を脅かしかねないという立場で、そのことを質してきました。先日、赤旗日曜版に、町長のオスプレイ飛行訓練に対するコメントが載っています。森林セラピーが台無しだとして、このように述べています。ちょっと読んでみます。「なぜ、信濃町にブルールートを設定しないといけないのか、正直分からない。県を通じて国に出した意見では、基本的に反対という言葉を使いました。住民の安心・安全を考えれば、賛成できません。小さい町ですが、町の代表として申し上げました。我が町は、林野庁認定の森林セラピー、癒しの森事業に力を入れています。自然の中で過ごすことで癒される取組です。年間 4500 人ほどの観光客が訪れています。ブルールートはこうした事業を行っている上を通るとみられます。セラピーをやっているんですよ。その上をバタバタと爆音を響かせられたらセラピーになりません。万々の時は、訪れる観光客、山菜取りに入る、山に入る町民の命にも関わる、沖縄でのオスプレイ墜落事故後の飛行再開はあまりに早かった。事故原因が明確にならないと、オスプレイの構造に問題があるのではとますます心配になります。」このように町長、その時に言いまして、新聞に載っているんですよ。私は、この長のコメント、非常にごもつともだと。長の立場として、住民の安全・安心を考える長としては、本当にごもつともな意見だなと、そのことが町長の政治姿勢、そういうことになるというふうに、私は思っているわけがあります。よく、信濃町のような小さな一自治体で国政や県のことを考えて何になるんだ、という人がいますが、それは大きな間違いであると私は考えます。したがって、これから質問することは、そういう考えに基づいていると私自身は思っています。

それでは、具体的な質問に入ります。

「農業問題について」であります。

安倍総理は 2018 年からのコメ政策の見直しで、生産数量目標の配分を止め、地域と農業者の責任でコメ作りをさせようとしています。自給の混乱を避けるためか、15 年産では飼料用米への転換などで生産調整を強力に進め、生産者も懸命な努力をしています。政府はまた、需要に応じたコメ作りと称して、外食産業などに向けての低価格米の生産にシフトするよう仕向けています。一方、トランプ大統領の T P P 離脱後の日米 F T A

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

など、予断を許さない状況が続き、我々農家も、とても先行きが不安な状況であります。私は TPP よりも日米の FTA のほうが大変ではないかと危惧しています。

一体、信濃町の主要農産物であるコメ作りがどのようになっていくのか、とても心配であります。このような状況をどのように捉えているのか、まず伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 荒井賢蔵議員さんから、信濃町の、あるいはまた日本の農業問題についてのお尋ねでございます。私は、この農業問題は、前にも一般質問等々でご質問をいただいたと思いますが、まさに、この信濃町の基幹産業の一つでございますので、大変重要な問題だというふうに考えております。

そういう中で、30 年から、いわゆるコメ政策の大きな転換がなされるというようなことになっているわけでございます。基本的には、国も、今までの、いわゆる水田活用の直接支払いの交付金、あるいはまた、なんていいますか、コメ畑作物の収入減少、影響緩和対策、いわゆるナラシ対策等々によって支援していくんだと、こういう方向性も示されているわけでございます。

具体的には、私自身も、JA さんにもこの問題はこれから特にこの信濃町にとっても、コメというのが、先ほど言いましたように中心的な作物でございますので、JA としても積極的にこの対応をしてもらいたいんだということを申し上げました。要は、どういうことかと言いますと、基本的に、生産量が消費につながるということでございます。そのことは、イコール、販売をどうしていくんだ、ということでございますので、いろいろな面で需要と供給のバランスが少しずつ変化してきていることは、私も承知はしているんですが、少なくとも、その今、30 年度からの新制度に基づく農業政策については、しっかりと農業者が経営が可能なように、組織として頑張りたいと、こういうことをお願いした経過もあるわけでございます。

そういう中で、県もそういったような取組をするというようなことにもなっておりますし、一体となって、行政関係はあくまでも一体となってその対応をしていくんだということが、方向的にも示されているわけでございますので、そういったことで、しっかりと支援できることは支援をして、守っていくべきことはしっかりと守っていききたいというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） これから質問しようとしたことに、先に答えたような格好になったようです。それはそれでいいです。私もそれなりに質問しますけれどもね。

ここで私は、今度言いたかったのは、非常に SBS 米をはじめ問題になっている、この中で結局、同時売買入札によって、コメ価格が低下すると。安いコメがアメリカから入ることによって、非常に日本のコメ価格が低下してしまうんじゃないかというふうに危惧されるわけだ。結局、一番は 7000 円台、60 キロで 7000 円台、30 キロの袋で言えば

3000 円台になってしまうのではないかとというような心配さえもされているわけであり
ます。

こんな中で、先ほど町長も言いました。信濃町はコメの産地、一番の農業の主力作物
であります。それで、そういう場合どうするんだということを非常に懸念するわけであ
ります。今ほど、それらに対して、農協やそういう関係のところとしっかり話をしなが
ら対策も立てると、考えていくと、というような答弁があったというふうに思うので、こ
れについては答弁要りません。長くなるのでね。時間が無くなるといけないから、答弁
しなくて結構です。今、先ほどの答弁でいたい町長の考えは分かりました。

次に、今この、多目的機能の組織によって、農地が守られているんですけども、こ
の補助制度がいつまで続くのかという点では分からないわけですね。安倍総理は補助制
度を無くす方向で考えているというように報道もされているわけでありまして。もし、こ
の補助制度が無くなって、集落単位での管理ができなくなったら、どのようにして農地
の維持管理を考えるか、その場合に農家支援と信濃町農業の振興策、これをどのように
考え、検討しているのか。そこをまず伺いたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 前段の方の、いわゆるコメ価格に対する影響を心配すると、7000 円
だの 3000 円だのというお話が今あったわけでありまして、少なくとも今、TPP はどう
いうふうになるか分かりませんが、その段階でも、一般質問でも頂戴していたところで、
私自身もお答えをさせていただいたかと思えます。

これやっぱり、全体の中で枠外として交渉、どういう内容の交渉だか私もよく承知し
ておりませんが、結果的に別枠として 7 万 5000 トンだか 8 万トンでしたか、というよう
な数字を日本に、国内に入れるということでありまして、そのことをもって、価格に影
響するというようなことはないというようなことだったわけですね。ただ、私自身もそ
ういった枠外部分がどういう流通に入ってくるのか、しっかりと理解していないので
すから、100 パーセントその価格に影響するかどうかということまでは、しっかりと、
必ずそういうことで影響しないんですというふうにも言い切れないなというふうな部分
は、私自身は持っております。

そしてまた、今後の中でいろいろな予測の中で、今の多面的機能の直接支払いの問題
だとか、いろいろな部分、今の現行制度を含めて、これが変わったときにどうするんだ
ということですが、少なくとも今進められている方向性、大きな方向性という
のは、自ら生産したものについては自ら販路を求めろよと、そのつまり海外も含めての、
というのが大きな狙いなわけですね。狙いなわけです。ですから、そういった方向性は
我々行政もしっかり受け止めなきゃいけないんですが、生産者自体も、そのことをしっ
かり受け止めながら、お互いにどういうことができるかということを検討していくこと
が必要なんじゃないかなというふうに思うんです。

その後において、いわゆる後のコメ政策といいますか、どういうふうにするんだとい
うことだろうというふうに思いますが、現状の中では今、具体的にそこまでの検討には

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

至っていないんじゃないかなと。もし私の答弁で不足があるとすれば、担当の課長の方から答弁をさせますので。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 輸入米、SBS 米、この前、問題になったわけですけども、それがうんと安く売り出される可能性が多分に出たわけですよ、あの時、問題になって。だから、私は 7000 円台とか 3000 円台、こんな感じになる可能性もあるんじゃないかなというふうに危惧したわけですけど、町長は今、安倍総理が言うように、生産者の責任で作って販売しろと、外国へも売ればいいじゃないかと言うけれども、我々信濃町の農家で、外国を相手にコメの販売できるような、そんなあれは恐らくないだろうと、個人的にいてもね、いう点ではなかなか現実合っていない方策だなというふうに、私は安倍総理の考えについては理解をしました。それはもう、それまでにして、次に進みますけれども、町として、今言いました、町として個人で消費拡大もなかなか難しいという時に、町がどういう、この消費拡大にどういうふうに支援、取り組まれるのか、ここはどうでしょう。何かそういう方策が考えられますか。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 今年度、12 月にコメの食味のコンクールを行ったところがあります。農協やコメの卸売業者の代表の方々に審査をしていただいて、あきたこまちの部、それからコシヒカリの部に分けて、上位 3 者ずつを金賞として、現在「金賞米」として、朝米・夜米と今まであったパッケージを作成をしながら、道の駅ですとか、業者を通ずる中で、東京方面での販売を行っているというところです。また、農産物の直売所の建設に合わせまして、そちらの方にも食味計を購入をして、皆さんの取った、生産したお米を、どんなお米なのかというのも見てもらう中で、そんなことでブランド化できるような形になっていけばいいと思っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 個人の消費、これ確かにしっかり目を向けて、そっちへ売るとは非常に大事かなと。それと同時にやはり、大手のそういう消費、セブンイレブンだとか、そういうところは独自に、多分今、持っているだろうけれども、しかし、それくらいの手先のところを考える、そういうふうなことも必要ではないかなと、是非そういうことも含めて消費拡大、積極的に取り組んでほしいなというふうに思います。

次に、T P P 関連の補助メニュー、確かあったというふうに思いますけれども、これ、とっても一般の人には使いづらい内容だったなというふうに私は思うんですよ。一部の人だけが使ったって駄目なんです。信濃町の小さい家族農業をやっている、そういう人たちにも使えるようなメニューならいいんですけども、何かこのそういうようなメニ

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

ュー、あるんでしょうか。どうなんでしょう。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） TPP 関連の補助事業につきましては、国の補正予算枠で計上されました、担い手確保、経営強化支援事業がございました。また、産地パワーアップ事業などが挙げられますが、平成 27 年度におきましては、担い手確保、経営強化支援事業につきましては、3 事業が採択になったところであります。

この申請に当たりましては、経営発展に必要な農業機械の購入や、農業用施設の取得ができる事業ということで、ただ、申請に当たり 10 パーセント以上の売上高の拡大、10 パーセント以上の経営コスト縮減の目標設定が必要で、国県の予算の範囲で採択されるため、ポイント制で優劣が付けられる仕組となっておりました。やはり、ポイントの高い方からの採択となりまして、誰でもできる、だれでも利用できるというような制度にはなっておりませんでした。

また、産地パワーアップ事業にありましては、攻めの農業を展開するために、やはり、農業用機械の購入や、施設の整備ができる補助事業でありますけれども、やはり生産コストや出荷加工コストの 10 パーセント以上の削減ですとか、販売額の 10 パーセント以上の増加等、目標のクリアする部分が必要でありまして、非常にハードルの高いものであります。

そんな中で、なかなか一般の人が利用できるという事業にはなっておりません。今回、国の制度ということでありまして、農業用の機械、また、施設の整備ということで、非常に多額な補助の制度でありまして、これを今現在、町ができるかということ、なかなか金額的な部分で、一般財源ではなかなか厳しいところでございます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 課長が言いましたね、確かに、こういう制度はあるんだけど、一般の人は使いづらいんですよ。だから、そういう面では、町独自に何かこう考えられないかなというふうに思うんですよ。で、なかなか今言ったとおり、金も必要だろうし、難しいことは私も十分理解します。是非、町独自でそういう小さい農家の皆さんに何かこう補助というか、力を貸せられるような、そういう制度、検討してもらいたいと思うんですけども、ちょっと考えだけでも、町長どうですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 将来に向けてどういう動きになっていくかということは、しっかりまだ見えてきてない部分、確かにあるわけですね。少なくとも今、現行制度の中で、国の制度としても、多面的機能にしても中山間地の直接支払いにしても、どんどんとその取組が町内において増えてきて、中山間地は別としてその中では、今、22 団体がその多

面的機能の取り組みをしていただいているということでございます。つまり、そういうことで、積極的に取り組んでいただいているということに対して、財源的にはやっぱり、国が2分の1、例えば県が4分の1、町が4分の1ということですから、比較的 2000 万とかという予算で、町の予算で中身として農政にも、金額的と言いますか予算的に言えば、投じているということでございます。

ポイントになる、今、御質問の趣旨ですが、どういうことが必要かということが、本当にそれが将来にわたって必要だということになれば、全く考えないというわけではありませんので、今後の中で、また具体的な部分があれば、十分また検討をしてみたいと。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 是非、町長、町独自のそういうあれも検討してください。そして、農家支援、是非頑張って、信濃町の農業を守るんだということを方向としてやってほしいということをお願いしたいというふうに思います。

次に、「子ども医療費無料化について」であります。

この問題については、共産党は一貫して運動をしてみいましたし、以前、私も質問しましたし、永原議員も昨年3月ですか、取り上げもしました。そして、結果として町は検討を約束して、29年度予算、ここに当初予算に、福祉医療として予算計上してあります。で、私は、このことについては非常に評価するものであります。15年のこの、統計上ですが、15年4月1日現在で、県下77市町村の中で41町村が18歳年度末までの無料というふうにしていたんですね。今まで信濃町はそこに入っておりませんでした。今年からそれが入ることになりました。非常に、対象の子どもを持つ保護者はもちろん、住民の皆さんは評価もし、喜んでくれるというふうに思っております。町長、短く一言、何かあれば、どうですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 短くということでございますから、私自身の思いでもありましたし、そしてまた、何人か議員さんからも、いろいろな御質問でも頂戴した部分でございます。29年度からということで、短くということですが、私はやっぱり、後年度に、ゆくゆくずっとこう、そういう制度が比較的残っていくものですから、後年度負担ということをしつかりと考えて、財政状況等々充分踏まえながら、今回決断をさせていただいたということでございます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） ただ、今、町は償還払いなんだよね。これを是非、償還払いではな

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

く現物支給という方向にしてほしいと思うんですが、それはどうでしょう。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 福祉医療費の現物支給、これは前々から、私ども信濃町だけじゃなくて、県の町村会といいますか、私ども仲間の町村会としても、そういったことを取り組んでほしいんだという要望を出しているわけですね。今も多分、多分といいますか、国の方で検討され、そしてまた方向、一定の方向性を出され、県としても多分、今年度中に一つの方向性が見えてくるんじゃないかなというふうに思います。

多分、長野県下 77 市町村のうち、現物支給を、直接ですよ、言っておられるような現物支給しているという所は、私はあまり聞いたことがないんですね。違った形で現物支給のような支給をしているという所は私は承知もしておりますが、そういう状況かなというふうに。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 私もちよっと、実際、現物支給しているところの数について、資料を持っていませんからあれですけども、しかし、そういうふうになっているところは、事実あるというふうに聞いております。是非、信濃町も償還払いではなく、そういう方向へ行っしてほしいなというふうに思います。そして、言えば、もっと言えば、窓口無料化も是非、早急に取り組んでいただいて、というふうに思うんです。前回、私、窓口無料化の話をした時、町長、県やそういうところで、いろいろ働きかけもするという答弁あったというふうに思うんです。そこはどうですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

◆町長（横川正知） したがって今、足並みをそろえて町村会としても、そういった要望を出しながら、行動しているということでございます。ただ、私ども今、信濃町だけでも先にやればいいのかというようなお話かもしれませんが、これやっぱり医療機関もあるわけでございます。信濃町の信越病院だけなら、場合によったら可能かもしれないんですが、しかし、それは今までの制度の中でも、いろいろな中で広げていくということになると、全県下あるいは県外にも影響してくると、いろいろな医師会等々の兼ね合いも出てこようかと思っておりますので、その辺はやっぱり、むしろ長野県下が足並みをそろえて対応できる方向性が一番いいんじゃないかなというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 今、私これから、そこのところ言おうと思ったんですよ。信越病院だけでも、やってもらえないかというふうにやろうと思って、ここへ書いてあるんです

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

よ。早急に取り組んでもらいたいというふうに思うんですよ。これ、信濃町が、よそはやっていないけれども信濃町だけでも実際やったよと、よそに先駆けてやったよと、これは非常に、信濃町の宣伝にもなるし、非常に住民の皆さんも喜ぶというふうに思うんですよ。是非ひとつ、この信越病院、信越病院の患者も増えますよ、是非、信越病院だけでも対応できる、そういうふうにしてもらいたいと思うんですが、是非検討してもらいたいが、どうですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 信越病院も、限られた診療科なんですね。ですから、信濃町の町民の皆さん方の公平性といいますか、そういったことも考えた時に、それだけ単独で走るというのはいかなものかというふうに、今、思っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） だから、私は言いましたよ。信越病院の患者が増えるじゃないですか。今までよそへ行っていた、例えば、飯綱病院へ行っていた人たちも、信越病院でそういうことになれば、信越病院へ戻ってきます。是非、そういう点でも検討してほしいというふうに申し入れをしておきたいというふうに思います。

それから、今、貧困世帯が増えています。で、先日この報道されていましたが、償還払いのために窓口で払う金がなくて、病院へかかりづらい、そういう人のために、町がお金を貸し付ける制度を始めていると、こんな報道がありましたよね。これ、大変素晴らしいというふうに思うんですけども、信濃町もそういうことを考えたらどうかというふうに思うんですが、どうでしょう。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 現行制度の中で、例えば、社会福祉協議会が一時的にそういったことにお金を、なんていいますか、お貸ししましょうというような制度があるわけですね。ですから、どうしても、というような場合には、現行制度を有効に活用していただきたい。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 結局、そういう、いい制度はあると、社協でやっていますよと言っても、なかなか皆知らない、だから利用しないわけですよ。是非そこを大いに宣伝して、こういう制度もあるよと、是非その必要とする人は申し出てくださいよというふうに、広報か何かでしっかり、皆に知らせてほしいなというふうに思います。

次に、原発問題であります。

以前この問題をご質問したことがあるわけですがけれども、今、安倍総理は川内原発を皮切りに、柏崎刈羽原発でも再稼働をさせようとしております。柏崎刈羽原発は世界でも最大級の大きな原発が 7 基あります。ここで一たび事故が起これば、信濃町は大きな影響を受けることになりかねません。先日、福島原発事故の現在の状態が報道されました。6 年も経っているのに、何ら事故が処理もできていないだけでなく、全容さえもはっきりしない状態でした。

これに見られるとおり、今、世界の中で放射能の無害化処理はできません。ただ、水の中で高温にならないように核燃料を冷やしておくだけであります。核廃棄物はどうかと言えば、オンカロのように地中深く、しかも石室に保存しておくだけであります。このような事を考えた時、町長として、やはり、国や電力会社に再稼働を行わないように、要請するべきだというふうに考えますが、町長の考えを伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 前にもこれも申し上げさせていただいたかと思えます。確かに、6 年になりますか、福島原発事故に伴って、関係市町村の住民の皆さん方、大変な御苦労していると、しかもまだ避難生活に及んでいるということについては、本当にお見舞いの気持ちでいっぱいでございます。そういった意味で、私もできることなら、これは本当に、日本国民全員が思うと思うんですね、できれば、そういう危険なものがない方がいいんだというのは、皆、基本的には同じだと思うんです。

ただ、現状の中で、国として全体バランスの中で、そういったことを進めているということでございますし、そしてまた、福島事故に反省して、つまり、再稼働についても厳しい、また何ていうんですか、正式名称はちょっと忘れましたが、審査委員会を設けてやっているというような状況でございます。そういった中で、私もこの信濃町として、今、国に対して原発を即廃止しろ、稼働を中止しろというようなことを言う立場には、今ないかなというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 町長は、この柏崎刈羽原発で、もし万が一、予期せぬ事故が起きたら、信濃町にはどのような影響があるというふうにお考えですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 具体的に、どういう事故が起こり得るのかということですよ。私は、そういった事故の種類についても十分承知はしておりませんし、そういう中では、今現行の中で、いわゆるこの信濃町の防災、安全ということに関しては、防災計画の中で、避難計画も含め、国と県と連携して対応しますよと、こういうことを計画とし

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

て持っているわけですが、それ以上のことについて、仮定した中での御質問について、お答えする能力は今持っておりません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 先ほども言いました、刈羽原発というのは、世界最大級の原発なんだよね。そして7基があるんですよ。もしこの中の1基、先ほど町長はどんな原発の事故だとは分からない、というようなことを言いましたけれども、今、考えられる一番のあれは、福島での事故ですよ、ああいう状態ですよ。もし、柏崎刈羽原発、もしそのようになったら、大変なことになるというふうに、私は思うわけでありませぬ。

先日、この原子力施設で安全上重要な機器がある建屋に、取水措置がされていない貫通部があり、外部から浸水する危険のあることが分かったと報道、これがされたんですね。この中に、柏崎刈羽原発も含まれていたんですね。で、こんにちの、今日の新聞です。今日の新聞には、柏崎刈羽原発の免震棟全てが、耐震基準がないんだというふうになっていました、それだけ危険な原発であるということですよ。で、福島のように予期せぬ事態、あるいは雨水が流入して漏電、電源が入らないというふうになったら、大変なことになるわけですね。

信濃町、この柏崎刈羽原発から80キロの圏内に当たります。風向きによっては被害が及びかねない、これはもう前から、そのことは皆がそういうふうに心配をしているし、また、私も前の時にもそのことは言いました。それを考えれば、国や電力会社に再稼働しないように申し入れる必要があるというふうに思うんですよ。漏電する可能性がある、こういうふうに言われているわけですよ、で、漏電したら、冷却するためのそういう装置が動かない、そういう事態にもなりかねない、こういうふうに報道されているわけだ。そういう状況の中で、町長、もう一度、それでも町長は申し入れをするような、そういうつもりはないというふうに言うのかどうなのか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 現状の中では、私は今、そういうことを国に対して申し上げることは考えていないということであります。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 前回、この原発の問題、町長とやりあったとき、いろいろ福井の裁判所の判決の文書を読みながら、町長の見解を質したというふうに思うんですけども、この時ね、町長、私、福井地裁の判決文を読みました。町長あれ、その後、この判決文を読んだことはありますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 当時、一般質問の中でいただいて、いただいてといいますか、お話を頂戴した、それ以上のことは認識はしておりません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 判決文は読んでいないということであります。あの時も言いました、こう言っているんですね、この判決の中では。ちょっと読んでみます。「被告は、本件原発の稼働が電力供給の安定性、コストの低減につながると主張するが、当裁判所は極めて多数の人の生存そのものに関わる権利と、電気代の高い低いの問題と並べて論ずるような議論に加わったり、その議論の当否を判断すること自体、法的には許されないことであるとする。我が国における原子力発電への依存率等に照らすと、本件原発の稼働停止によって、電力提供が停止し、これに伴って、人の生命、身体が危険にさらされるという因果の流れは、これを考慮する必要はない状況であると言える。被告の主張についても、本件原発の再稼働停止による不都合は、電力供給の安定性、コストの問題に留まっている。このコストの問題に関連して、国富の流出や喪失の議論があるが、例え、本件原発の運転停止によって多額の貿易赤字が出るにしても、これを国富の流出や喪失と言うべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなるのが国富の喪失であると、裁判所はそのように考える。」このように言っているわけであります。

そして、私は、このことを読んで、そして町長に、町長の見解を求めたわけですね。そしたら町長は、今、先ほどもちょっと言いましたけれども、こういつて答弁しているんですね。「国民誰もが、いわゆるまさに、国富、国の富ですね、そういうことがある上で、享受をして、それぞれのエリアの地域の中で生活できるということは、極めて大事なことであると思う。今、おっしゃるように基本的には原子力政策そのものが、そういったことを加味しながら、国の政策の一つとして進んでいるということ認識している」というふうに言っておるんですよ。結局、いろいろ心配なことはあるよと、しかし、最終的には国が、いろいろ安全というところのことも考えてやっている、というように言って、国の擁護をしている、そんなような答弁を前回、町長はやったわけですね。

で、先ほど来、言いました、このこういういろいろ、新潟県では柏崎刈羽原発を再稼働しないというようなことを言った知事が誕生したと。これは新潟県民が選んだんですよ。再稼働しないというふうに言ったこの知事を。それこそ予想もしていなかった、そういう結果を、新潟県民は選んだ、そのくらい、原発というのは、住民にとっては心配なことなんですよ。安全性を考えれば、そういう点では、こういう情勢の変化、これが今日あるわけですね。で、こういう情勢の変化がある中で、それでも町長は、まだ申し入れるべきではない、町長はそういう立場じゃないというふうに考えますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

■町長（横川正知） 今の民主主義の制度の中で、他県の選挙の結果について云々言う立場じゃありませんので、そのことは控えさせていただきたいと思います。

ただ、いろいろな中で、一般的にはいろいろな選挙においては、争点があるだろうというふうに思います。それがそういうことで 100 パーセントだったのかどうなのかということは、また違うんだという見方も出て来るんじゃないかなと。それから、もう一つは、あのご当地で市長選挙もあったわけでありまして。そういった部分も含めて考えた時に、どういうふうにまた判断をしていくかという、それはそれぞれの地元、地元の民主主義を反映しての結果ですから、そのことはそのこととして、地元の結果として、地元の皆さん方はそれぞれそういったことの結果は、しっかりと受け止めて対応すると。

私は今、決して容認をしているとかどうとかじゃなくて、今の法体系の中で、国がやっぱりそのことをしっかり進めていると、そのことに対して今、言える、言えるといえますか、言うような状態、事態じゃないんじゃないかなということ、先ほどから申し上げているところであります。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 町長、先ほど言いました、この安全について、原子力安全規制委員会の委員長、先ほど言いましたこの委員会、この委員長は、以前、安全性に対し発言しているんですね。こういうふうに言っているんですよ。「この検討委員会は、基準に対して、どうなのかを判断する、検討するのであって、安全性を担保するものではない」。だから先ほど町長が言いました「国がそういう委員会を作って、そしてやっているから大丈夫だ」というような先ほどの答弁ですけれども、しかし、安全委員会の委員長はそう言っているんですよ。安全性を担保するものではない、というふうに言っているんですね。だから、そういう中でも、町長は柏崎刈羽原発、確かに私どもの町のことでないし、県外のことで、しかし、柏崎刈羽原発は先ほども言いました 80 キロ圏内ですよ。風向きによっては影響があるんですよ、信濃町にも。考えられないことはないんです。そういうことを考えた時に、町長は住民の安心・安全を考えれば、当然、これは再稼働しないように、もし、万が一にも、こんなことはあっては困るんだが、事故があっては困る、是非そういうことを、大丈夫なのか、じゃあその大丈夫なのか安全を担保する、そういう何か、こういう事は、この電力会社に確認は取ってありますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 確認は取ってありません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） そうするとね、当然、電力会社は、自分たちは安全だというふうに思って進めているわけだろうとは思いますが、しかし、町長も安全確認も取っ

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

ていないという中で、この住民の安心・安全を考える町長の立場とすれば、当然、私は、柏崎の刈羽原発再稼働をしてもらいたくないというくらいの意見を上げて、全然不思議ではないし、間違っていることではない、逆に私は、信濃町の町長としてやるべきではないかというふうにさえ思うわけであります。町長、これ以上私が言っても、おそらく「私は考えません」と、「そういうつもりありません」というふうに答弁するんだろうなというふうに思うわけで、これ以上この問題、論じても仕様がなけれども、しかし、町長は住民の安心・安全、そういうことをやはり、第一義的に考えて、そして、そういう行動を取ってほしい、というふうに私は思うんですよ。で、私は今回で最後ですから、もう町長にこの事を迫る立場が無くなってしまいうわけですよ、実際のところ。そういう点では、町長、是非考えてほしいというふうに思うんですが、どうですか、もう一度。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 何ていいますか、何回お尋ねをされても、今、議員さんが、多分そうだろうというふうな答えを想定しているということでございますので、想定どおりでございます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） あのね、想定どおりじゃ困るんですよ。だからあえて聞いたんですよ。予想はされたけども、あえて聞いたんですよ。そういうことではなくて、考えを変えてもらいたい。そういう立場で私は聞いたわけですけども。是非、ここをひとつ町長、町長、判決文を読んでないというふうに言いますけれども、ひとつここだけ読んでみますが、「原子力発電所の稼働が二酸化炭素排出削減に資するもので、環境面で優れているような主張があるけれども、原子力発電所で、ひとたび深刻事故が起こった場合の環境汚染は、すさまじいものがあるって、福島原発事故は我が国始まって以来、最大の公害、環境汚染であることに照らすと、環境問題を原子力発電所の運転継続の根拠とすることは、甚だ心外だ。」というふうに言っているんですね。そういうあれではないと、このように判決は言っている。それだけ、原発の工程、これには無理矛盾があるというふうに、私は考えるわけです。是非、私、判決文を貸します、是非町長、読んでみてください。町長の考え方が変わってくれるんじゃないかなというふうに思います。是非、どうですか。読んでみる気がありますか。それこそ、今日でも明日でも持って来ますよ。いかがでしょう。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 読まないということはありません。ただ、判決文だけじゃなくて、元の主張がどうだったのか、そういった一連を、もし譲っていただけるなら、そのことも含めて頂戴できればありがたいなというふうに思います。そしてまた、今、その判決

平成 29 年第 413 回信濃町議会定例会 2 月会議会議録（3 日目）

文、大変重要にされておりますが、そういうことだろうと思うんですが、しかし、その判決文にどう対応するかというのは、まさに国がどういうふうに対応するかという課題だろうというふうに思います。以上です。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） あのね、65 ページからあるわけです。で、必ず町長に持って来ます。読んでみてください。本当に原発はこういう立場で駄目なんだ、住民のことを考えれば、再稼働すべきではないということが、裁判所、本当に勉強しながら、そのことを判決文として書いてあります。是非、読んでみてもらいたいなというふうに思います。

最後に、私はこの場所をお借りしまして、一言お礼を申し上げさせていただきたいなというふうに思います。私の時間、あと少しでございます。お願いをしたいというふうに思います。私は、今期をもちまして議員を引退いたします。一般質問をお聞きの皆さんはじめ、多くの皆さんにお力添えをいただき、議員活動をさせていただきました。そのことに対して、本当に感謝を申し上げ、最後の一般質問を終わります。ありがとうございました。

●議長（小林幸雄） 以上で、荒井賢蔵議員の一般質問を終わります。

この際、2 時 10 分まで暫時休憩といたします。

（午後 1 時 59 分）